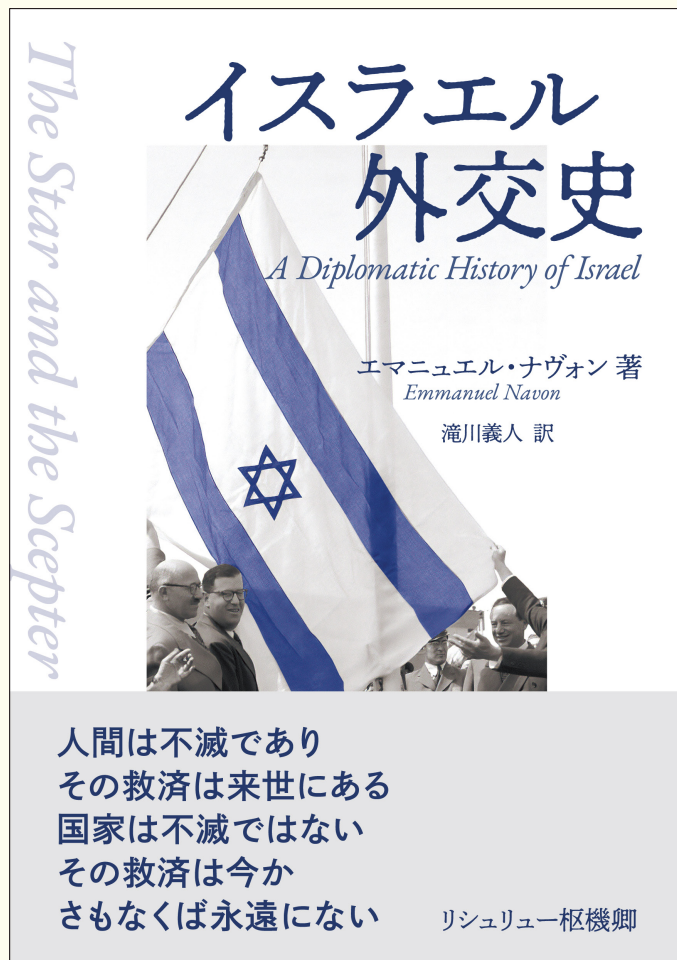


エマニュエル・ナヴォン〔著〕 滝川義人〔訳〕

A5 判・並製 424 頁 定価 3,300 円（本体 3,000 円＋税）

[ISBN 978-4-89586-169-4 C0022]



イスラエル 外交史

5月下旬
発刊予定

■ イスラエルは好戦的な国なのか

ユダヤ人の外交史を古代から現代まで幅広く網羅した包括的な作品。聖書の古代世界から始まり、21 世紀の現代に至るまで、ユダヤ民族・イスラエル国家が生き残りをかけて挑んできた“外交史”の舞台裏を掘り下げる。

■ 最新の情報をアップデート

原書は 2020 年に出版、その後の 5 年間で情勢は大きく変化した——アブラハム合意（2020）、ハマス・イスラエル戦争（2023）、イラン直接対決、シリアのアサド政権の崩壊（2024）——日本語版は筆者がこれらの事件を加筆した最新版。

■ 世界各国との関係性を丁寧に分析

欧米やロシアはもちろん、中国、インド、日本をはじめとする東南アジア、アフリカや南米などの国々との関係を 1 つずつ取り上げ、交易、軍事協力、エネルギー政策など様々な分野での協力関係、あるいは敵対的な状況などを分析。

● Emmanuel Navon ● イスラエルを代表する国際関係問題の専門家。1971 年パリ生まれ、1993 年イスラエルへ移住。パリ政治学院卒業。ヘブライ大学で博士号（国際関係論）取得。現在テルアビブ大学政治学部および大学院アバ・エバン外交講座講師、エルサレム戦略・安全保障研究所（JISS）の主任研究員、ELNET・ISRAEL 会長。著書・論文多数、日本語の出版は本書が初。